

## 7. 戦略に基づく施策

### 1) 風通しのよいまちをつくる

大阪市では、夏の晴れの日には、大阪湾から数百メートル以上の厚みをもった海風が、市全域に吹いている場合が多い。

オープンスペースである河川や広幅員の道路、公園緑地などでは、抵抗となる障害物が少ないため上空の風が導かれやすく、地表面近くにおいても、上空に近い大きな風速となる。

ヒートアイランド対策に風を活用し、風通しのよい快適なまちをつくるためには、大阪市の地理的特徴や都市基盤を活かして、東西方向の河川や道路、公園緑地の周辺において、地表面近くの一体的なオープンスペースを地区レベルで確保し、海風を地上に導くことが重要である。

敷地レベルでは、こうして導かれた風を街区内にまでスムーズに誘導し市街地での通風を確保するため、細やかに風通しへの配慮を行い、最終的には大阪市全域に風が行き渡ることが望まれる。

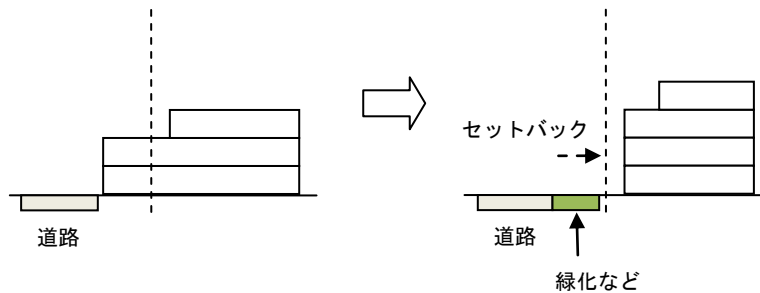
## ①地区レベルで海風を導く。

- ☆ 東西方向の道路や公園緑地の周辺において、たとえば建築物のセットバックを誘導することにより一体的なオープンスペースの拡幅を促進する仕組みを検討する。
- ☆ 面整備事業における環境影響評価手続き<sup>\*)</sup>を通じて、一体的なオープンスペースの確保など海風を導くよう配慮を求める。

(☆は短期的に取り組む施策)

### 【施策イメージ】

#### ○壁面後退の事例



<sup>\*)</sup> 大規模な事業の実施にあたり、事業者自らが環境に及ぼす影響をあらかじめ調査・予測・評価し、その結果を公表して住民等の意見を聴くことにより、事業が環境の保全に十分配慮して行われるようにするための制度。

## ②敷地レベルで細やかな通風を確保する。

- ☆ 建築物や施設整備の環境影響評価手続きなどにおいて、敷地レベルでの細やかな通風に配慮した建築を誘導するための仕組みを検討する。
- ☆ 公園樹木や街路樹について、風通しをより体感できるような樹木の育成・管理を検討する。

(☆は短期的に取り組む施策)

### 【施策イメージ】



通風に配慮した建築のイメージ



みおつくしプロムナード

## 2) 涼しい「風」を保つ

涼しい海風が暖められることなく、市域全体に行き渡る涼しいまちを形成する。

### ③緑化を推進する。

- ☆ 公共施設の敷地内や学校の校庭等における緑化、芝生化を推進する。
- ☆ 緑のカーテン・カーペットなど、市民自らによる緑化を促進する。
- ☆ 民有地緑化を支援する制度等により、きめ細やかな緑化を推進する。
- ☆ 公園や道路における樹木は、緑量の増加を図るよう適切な維持管理を行い、生物多様性にも貢献する。
  - ・ 建築限界などを考慮しつつ、可能な範囲で樹冠の大きな街路樹の植栽を推進する。
  - ・ 開発時における緑化の義務や誘導制度などを活用して、民間建築物の敷地・壁面・屋上緑化を推進する。
  - ・ 護岸の壁面緑化を推進するとともに、自然護岸を保全する。

(☆は短期的に取り組む施策)

#### 【施策イメージ】



樹冠の大きな街路樹の整備



民間建築物の屋上緑化

## ④道路や建物等からの放熱を抑制する。

- ☆ 道路や敷地等において保水性舗装など路面温度低減舗装を推進する。
- ☆ 建築物の屋上や壁面において、遮熱性塗装や高反射ガラスなど熱を遮蔽する材料の使用を促進する。
- ☆ 建築物の屋上や壁面において、木材や土などの蓄熱性の低い材料の使用を促進する。
  - ・ 建築物の敷地等において、パーゴラなどによる影の創出を促進する。
  - ・ 河川の高水敷には、草本等の植生が自然再生するよう促す。

(☆は短期的に取り組む施策)

### 【施策イメージ】



パーゴラ  
藤棚等に代表され、つる性の植物で絡ませて日陰棚をつくる。

建築部壁面における木材利用  
(大阪木材会館)





## ⑤水を活用する。

- ☆ 民間建築物等において、ドライ型ミスト散布の普及を促進する。
- ☆ 建築物の屋上等において、大規模ミスト散布の普及を促進する。
- ☆ 打ち水の普及を促進する。
- ☆ 道路等において散水を行い、路面温度の低下を図る。
  - ・ 建築物の敷地において、水面の設置を誘導する。

(☆は短期的に取り組む施策)

### 【施策イメージ】

水都大阪 2009 会場での  
ドライ型ミスト散布  
(平成 21 年度  
水道局モデル事業)



もと扇町高校での  
大規模ミスト散布  
(平成 22 年度  
水道局実証実験)

## ⑥人工排熱を低減する。

- ☆ 交通渋滞対策を推進し、自動車排熱の削減を図る。
- ☆ 電気自動車、低燃費車などエコカーの普及を促進し、自動車排熱の削減を図る。
- ☆ 電車、バス等の公共交通機関の利用を促進する。
  - ・ 河川水、地下熱、下水道などの未利用エネルギーを用いたヒートポンプを活用し、排熱を抑制する。
  - ・ 地域熱供給システムを推進する。
  - ・ 業務ビル等の空調室外機において、水の蒸散作用による潜熱化対策技術の普及を促進する。
  - ・ 建築物からの空調排熱等を削減するため、省エネ機器や排熱の少ない設備の導入を促進する。
  - ・ 自然・未利用エネルギーの利用などを推進する。

(☆は短期的に取り組む施策)

### 【施策イメージ】

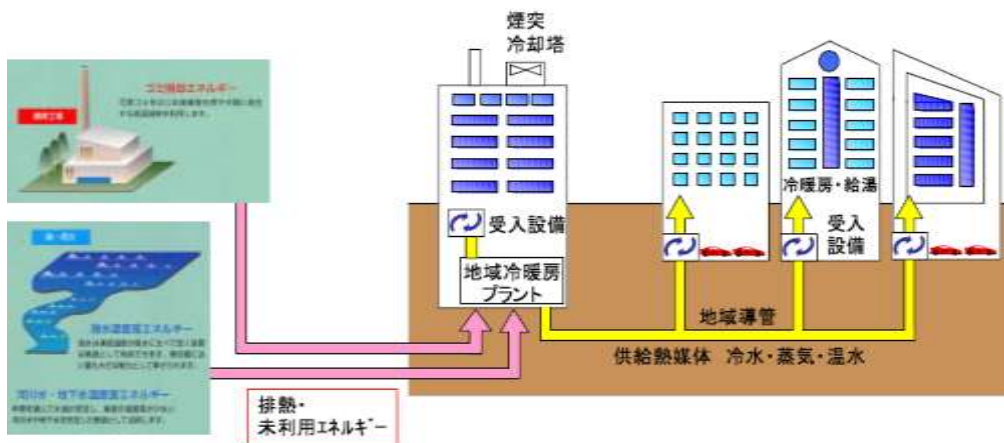


図 地域熱供給システムのイメージ

出典：社団法人都市環境エネルギー協会資料

### 3) 連携と協働を強化する

大阪市では、その立地特性から、市域全体にわたって西から海風が吹いており、その活用が可能であることから、全市的に取組みを進めていくことが重要である。

このため、公共空間、民有地にかかわらず、市民、企業との協働による対策を一層推進し、公民一体となって風通しのよいまちの実現と快適性の向上を図っていく。

## ⑦市民、企業との協働を重点化する。

- ☆ ドライ型ミスト装置設置補助制度の適用エリアを拡大する。
- ☆ 打ち水、緑のカーテン・カーペットづくりなどの啓発活動を積極的に行う。
- ☆ ヒートアイランド配慮型優良建築物などに対する表彰制度を実施する。
  - ・ 緑化を支援する制度などを充実させる。
  - ・ 民有地の緑について、緑量を増加させるような樹木の育成・管理を促進する。

(☆は短期的に取り組む施策)

#### 【施策イメージ】

##### ○打ち水 ～身近なヒートアイランド対策～

打ち水とは、道路や庭に水をまいて、土ほこりを防いだり、夏の涼を得たりする、昔からある日本人の知恵のひとつです。江戸時代頃から、夏の涼をとる実用的な意味が大きくなり、近年はヒートアイランド現象の緩和に活用しようと取り組む人が増えています。

大阪市では、市内各所で市民や企業の方々々と協働して「大阪打ち水大作戦」を実施しています。この打ち水大作戦では、下水の高度処理水を有効利用するなど、健全な水循環の構築に寄与しています。



「大阪打ち水大作戦」  
打ち初めイベントの様子



## ⑧民間の新たな技術開発を支援する。

☆ 大阪HITEC、成長産業チャレンジ支援事業などを通して、新たな技術開発を支援する。

(☆は短期的に取組む施策)

### 【施策イメージ】

#### ○大阪HITEC（大阪ヒートアイランド対策技術コンソーシアム）

ヒートアイランド対策技術について、情報交換はもとより、対策技術の開発・普及や効果的・効率的な対策推進等に関し、産・学・官・民が連携・協力するための仕組みとして、平成18年1月に大阪HITEC（大阪ヒートアイランド対策技術コンソーシアム）が設立されました。

大阪市では、この大阪HITECに参画することを通して、ヒートアイランド対策技術の開発・普及、対策の実施と効果検証、産学官民による協働の実践に取り組んでいます。

## ⑨大阪府や近隣自治体と連携する。

☆ ヒートアイランド対策に係る取組みや緑の計画について、より一層の連携を図る。

(☆は短期的に取組む施策)

### 【施策イメージ】

大阪市の近隣の市では、本市と同様に市街化されている区域が多く、ヒートアイランド対策としてさまざまな取組みが行われています。

本市の「風の道」に関する取組みは、海風の風下に位置する都市のヒートアイランド現象の緩和にもつながるもので、「風の道」ビジョンを含めたヒートアイランド対策に係る種々の取組みについて、大阪府や近隣自治体とより一層の連携を図り、一体的かつ効率的に施策を実施していきます。

特に、広域自治体である大阪府とは、ヒートアイランド対策などの市域に限定されない環境施策、道路・河川などの広域的な都市軸の形成、府域の緑の計画の根幹をなす「みどりの大阪推進計画」など、「風の道」ビジョンの推進と密接に係る施策については連携を図っていきます。

#### 4) 主な施策の体系図

##### 風通しのよいまちをつくる

###### ①地区レベルで海風を導く。

- ☆東西方向の道路や公園緑地の周辺で、オープンスペースの拡幅を促進する仕組みを検討する。
- ☆面整備事業における環境影響評価手続きを通じて、海風を導くよう配慮を求める。

###### ②敷地レベルで細やかな通風を確保する。

- ☆敷地レベルでの細やかな通風に配慮した建築を誘導するための仕組みを検討する。
- ☆風通しをより体感できるような樹木の育成・管理を検討する。

##### 涼しい「風」を保つ

###### ③緑化を推進する。

- ☆公共施設の敷地内や学校の校庭等における緑化、芝生化を推進する。
- ☆緑のカーテン・カーペットなど、市民自らによる緑化を推進する。
- ☆民有地緑化を支援する制度などにより、きめ細やかな緑化を推進する。
- ☆公園や道路の樹木は、緑量の増加を図るよう適切な維持管理を行い、生物多様性にも貢献する。

###### ④道路や建物等からの放熱を抑制する。

- ☆道路や敷地等において、保水性舗装など路面温度低減舗装を推進する。
- ☆建築物の屋上や壁面で、熱を遮蔽する材料、木材や土などの蓄熱性の低い材料の使用を促進する。

###### ⑤水を活用する。

- ☆民間建築物等において、ドライ型ミスト散布、大規模ミスト散布の普及を促進する。
- ☆打ち水の普及を促進する。
- ☆道路等において散水を行い、路面温度の低下を図る。

###### ⑥人工排熱を低減する。

- ☆交通渋滞対策の推進や、電気自動車などエコカーの普及促進により、自動車排熱の削減を図る。
- ・未利用エネルギーを用いたヒートポンプの活用、地域熱供給システムを推進する。
- ・業務ビル等の空調室外機において、水の蒸散作用による潜熱化対策技術の普及を促進する。

##### 協働と連携を強化する

###### ⑦市民、企業との協働を重点化する。

- ☆ドライ型ミスト装置設置補助制度の適用エリアを拡大する。
- ☆打ち水、緑のカーテン・カーペットづくりなどの啓発活動を積極的に行う。
- ☆ヒートアイランド配慮型優良建築物などに対する表彰制度を実施する。
- ・緑化を支援する制度などを充実させる

###### ⑧民間の新たな技術開発を支援する。

- ☆大阪HITEC、成長産業チャレンジ支援事業などを通して、新たな技術開発を支援する。

###### ⑨大阪府や近隣自治体と連携する。

- ☆ヒートアイランド対策に係る取組みや緑の計画について、より一層の連携を図る。

(将来イメージ)

